

今月のグレース
Monthly Grace

ウイルス感染症-伝染性紅斑(りんご病)-

新年になり、インフルエンザが猛威を振るい、流行警報(30人/週(定点)を超えた人数に達したとき発令される)が発令されています。こまめな手洗い休養・栄養・水分補給、マスク、適度な室内加湿・換気が大切です。

※定点とは、感染症の発生状況を知るために一定の基準に従ってこれらの情報を報告する医療機関

さて、ここ最近ウイルス感染症で受診患者さんが多いと感じるのが、伝染性紅斑いわゆるりんご病です。両頬がリンゴみたいに真っ赤になるので『リンゴ病』とよばれます。

症 状：37.5℃ぐらいの微熱と軽い風邪のような症状の後に、顔から皮疹が出現します。

お顔は両頬を中心に平手でたたかれたような赤い斑が現れます。次に腕→手の順番でレースの様な形をした赤い斑が出現、太ももや体にも見られます。半数ぐらいの患者さんには痒みを感じることがあるようです。発疹以外の全身の症状は子供には少なく、成人で発症したときには発熱・頭痛・だるい・関節痛などを起こすことがあります。

経 過：お顔の症状は、7日～10日ぐらい、手足は4～5日でよくなり、通常は跡形もなく良くなります。まれに、気温の上昇、入浴、日光などで手足の赤い斑が再燃する事があります。

原 因：パルボウイルスB19というウイルスが原因です。

好発年齢・季節：2歳～12歳に発症しやすく、教科書の上では冬～春にかけて多発とありますが、東京都感染症情報センターのまとめによると7月ぐらいまで見られるようです。

治 療：特にありません。発疹が出るころには感染力がなく登校も問題ありません。



注意する事：予防対策として、日頃からうがい、手洗い、咳が出るときにはマスクをするなどが必要です。また、原因ウイルスであるパルボウイルスB19は妊娠20週までに感染すると胎児に異常が出る場合があります。保育園、学校などで流行しているときは特に注意が必要です。

